

D-CROWN PROFESSIONAL 規程

一般社団法人 D-CROWN

平成 22 年 1 月 31 日制定

平成 24 年 2 月 27 日改正

目 次

D-CROWN PROFESSIONAL 規程

I.	プロ認定試験	1
	A) 受験資格	
	B) 試験	
II.	登録・更新	1
	A) 認定登録	
	B) ライセンス費	
	C) 更新	
	D) 選手契約および会員証	
	E) 会員証の携帯義務	
	F) 報告	
III.	競技トーナメント	2
	A) 役員	
IV.	その他	2~3
	A) 義務	
	B) 資格の取り消し	
	C) 着衣 (ユニフォーム)	
	D) スポンサーロゴ等	

D-CROWN 競技規程

I.	一般規程	4
	A) 役員およびスタッフ	
	B) 国際トーナメント	
II.	一般競技規程	4~7
	A) 用具および設備	
	B) 投げ方	
	C) ミドル勝負	
	D) 得点記録および審判	
III.	D-CROWN PROFESSIONAL トーナメント	7~11
	A) 定義	
	B) 役員	
	C) トーナメントの形式	
	D) 選手と参加費用	
	E) 受付・呼出	
	F) 種目	
	G) ゲーム・レッグ	
	H) トーナメント試合	
	I) 失格	
	J) 練習	
	K) ラウンドロビン	
	L) スコアシート	
	M) マッチカード	
	N) 品行	
	O) 異議	
	P) 宣伝	
	Q) 態度と服装	
	R) 賞品	

D-CROWN PROFESSIONAL 規程

I. プロ認定試験

A) 受験資格

1. 一般社団法人 D-CROWN(以後 D-CROWN と称する)が制定する、本規約の目的を理解しその発展に寄与できること。
2. ダーツをスポーツとして捉え、競技規約に従い競技ができるもの。
3. テスト受験日に満 20 歳であること。
4. 他の賞金を目的としたプロ団体に参加し、ソフトダーツの賞金サーキットに参加している選手は受験できない。

B) 試験

1. 認定試験は D-CROWN の責任で行う。(D-CROWN が任命した D-1 グループディーラーが行うこともある)
2. 認定試験は、実技試験 (D-CROWN TEST) および筆記試験 (D-CROWN PROFESSIONAL TEST) の二つを指し、主に D-1 グループ店舗およびトーナメント会場で開催する。
3. 試験日時は、D-CROWN PROFESSIONAL サイトで事前に発表する。
4. 筆記テストは、受ける前日までに実技テストに合格してなければ受けることができない。
5. 認定試験は、D-CROWN が認めた試験官によって実施される。
6. 認定試験合格者はプロ選手として D-CROWN に登録される。
7. 認定試験受験料は別途定める金額を定められた場所および日時までに納めなければならない。
8. 特例として、D-CROWN が認めた選手は、筆記テストを免除する場合がある。その場合、講習を行い、本規約を完全に理解させるものとする。

II. 登録・更新

A) 認定登録

D-CROWN PROFESSIONAL の登録資格を得た選手は、初年度の登録する費用として、別途定める認定料を納めなければならない。

B) ライセンス費

認定料と同時に、年間を通じてライセンスを許諾する費用として、ライセンス費を支払わなければならない。ライセンス費は、年間(12月31日まで)を通して許諾する通年ライセンス費と、参加するトーナメントごとに許諾するスポットライセンス費の二つがあり、選手はどちらかを選択することが可能である。

C) 更新

登録更新は、指定された期日に、D-CROWN 年会費、D-CROWN PROFESSIONAL 更新料、場合によってはライセンス費を納めなければならない。

D) 選手契約および会員証

選手は必ず D-CROWN と選手契約を結ばなければならない。契約を完了した選手には、D-CROWN PROFESSIONAL 選手の証として、会員証を発行する。

E) 会員証の携帯義務

選手は、トーナメントに参加する場合、必ず会員証を携帯しなければならない。もし携帯していなかった場合、そのトーナメントに参加できない場合もある。

F) 報告

選手が、氏名、住所、連絡先などの変更があった場合、会員証等の紛失などは、D-CROWNに直ちに報告しなければならない。報告が無く連絡が取れなかったなどの場合、除名されることもある。

Ⅲ. 競技トーナメント

A) 役員

1. トーナメントはD-CROWNと有限会社ADAJapan、D-CROWNが任命したD-1グループディージャーを役員とし、それらによって運営される。
2. 役員は、トーナメントを速やかに運行し、すべての問題を解決しなければならない。
3. 競技規則は、D-CROWN PROFESSIONAL 競技規程を適用する。
4. 競技方式および出場選手数等々は、D-CROWNの決定により変更することが出来る。

Ⅳ. その他

A) 義務

1. 登録プロ選手は、D-CROWNの管理するイベント（デモンストレーション、教育、指導等）および撮影（インタビュー、スチール、フォーム撮影等）に協力する義務が生じる。
2. 登録プロ選手がプロ競技トーナメントに参加する場合は、所定の方法により、指定された期日までにエントリーし、なおかつ施設使用料分担金を支払わなければならない。
3. 登録プロ選手は、D-CROWNの開催するプロ講習会に参加しなければならない。
4. トーナメントおよびD-CROWNの管理するイベントに出場する全てのプロ選手は、D-CROWNの定めるユニフォームを着用し、プロ登録の際発行された会員証を携帯しなければならない。

B) 資格の取り消し

1. 正当な理由が無く、以下の項目に該当する選手は、1年間の出場資格を失う。
 - a. エントリーをし、当日許可なく出場しなかった選手
 - b. トーナメントにおいて運営義務（審判等々）を放棄して帰った場合に科せられるペナルティを5回受けた場合
2. 以下の項目に該当する選手は、以後プロ登録抹消される。
 - a. 選手本人より資格返還の申し出があり、D-CROWNが受理した場合
 - b. 登録料および更新料を定められた期日までに納入できなかった場合
 - c. D-CROWNの名誉を傷つけ、又はD-CROWNの目的に違反する行為があった場合
 - d. プロ選手としての意識に欠けているとD-CROWNが判断した場合
 - e. 他の賞金を目的としたソフトダーツの賞金サーキットに参加した場合（アマチュアでの参戦も参加したものとみなす）
ただし、D-CROWNが認めたもしくはD-CROWNが主催および協賛する大会は、他団体の主催であってもこの限りではない

C) 着衣（ユニフォーム）

1. シャツは胸部にD-CROWN PROFESSIONAL ワッペンの付いた襟付きシャツ（ポロシャツも可）であること。

2. ズボンはかかとまで丈のあるズボンであること。ジーンズも可能ではあるが、手のひらで隠れない大きさのダメージや穴が空いたものは禁止とする。
3. シューズは革靴もしくはスニーカーとする。かかとのない靴およびサンダル等は禁止とする。
4. 帽子など、頭に着用する衣類は禁止とする。
ただし、宗教上の理由で必要な場合等は、事前に D-CROWN 事務局に了承を得れば、この限りではない。

上記に一点でも違反があった場合は、その日のエントリーは取り消しとなる。ただし注意勧告の後に修正した場合は、この限りではない。

また、選手は暑さ寒さに関係なく、故意にシャツなどの胸元を開けることやズボンをたくし上げたりしてはならない。

D) スポンサーロゴ等

着衣にスポンサー名および店舗名等のロゴを入れる場合、事前に D-CROWN に申請し、許諾されたものでなければならない。

もしトーナメント当日に、許諾されていないロゴが使用されていた場合、そのロゴをシール等で隠す。もしくは替わりの着衣に着替えるなどの処置を施さなければならない。

D-CROWN 競技規程

一般社団法人 D-CROWN（以下 D-CROWN）管轄のすべてのトーナメントについては、次に定める規程に従うものとする。

I. 一般規程

A) 役員およびスタッフ

1. D-CROWN は、公式の D-CROWN PROFESSIONAL トーナメント（以下、トーナメント）等の試合を開催する等、認可することにおいて全ての責任があり、また協賛者、協力者等を任命する権利を持つ。
2. 全ての選手は、全てのトーナメントにおいて D-CROWN によって任命された役員およびスタッフの監督、指導のもとにおかれる。
3. D-CROWN 競技規程に付属する全ての事柄における最終決定権は、D-CROWN 役員および D-CROWN より任命された役員およびスタッフにある。
4. 全ての選手は D-CROWN 競技規程に基づいて競技を行い、追加の規程については役員およびスタッフを通じて、制定される。
5. D-CROWN と役員およびスタッフは、トーナメントの日付や時間、場所等を前もって選手に知らせずに変更や中止する権利がある。
6. D-CROWN とその役員およびスタッフは、トーナメントにおいて違反或いは損害をもたらしたと見なされる全ての選手を、失格として懲戒する権利がある。
7. D-CROWN は、一年以内の期間における全てのトーナメントに参加した選手を、前 6 項により失格としてもよい。
8. 選手は自分の責任においてトーナメントに参加し、D-CROWN とその役員およびスタッフは損傷や損害の責任は取らない。

B) 参加条件

他の賞金を目的としたプロ団体に参加し、ソフトダーツの賞金サーキットに参加している選手は参加できない。

ただし、D-CROWN が認めたもしくは D-CROWN が主催および協賛する大会は、他団体の主催であってもこの限りではない。

C) 国際トーナメント

日本において開催される D-CROWN 主催全ての国際トーナメントは、当該トーナメント主催団体の競技規程に基づいて行われる。

II 一般競技規程

A) 用具および設備

1. 選手はチップ・バレル・フライトと認識でき、30.0cm、20 g 超えないダーツを持参する。チップはプラスチック状のものとする。
2. ダーツマシンは D-CROWN 公認ダーツマシンを使用しなければならない。その内容は下記のとおりである。
 - a. Reb International 製 Dart-One
 - b. D-CROWN 用カスタムチップ仕様
3. 水平に置いたときの床から中心の長さは、1.73m である。
4. スローインラインは 610mm 以上の長さでしるされ、ダーツボードの表面から垂直線を床まで引き、そこからスローインラインの前端までは 2.440m でなくてはならない。また、ボードの中心から線の中心までの対角線は、2.991m でなくてはならない。

5. オキ“Oche”を設置してもよい。その場合、高さ 3cm から 10cm 以内のものとし、“Oche”ラインの後ろとスローライン前端と一致するように設置する。

B) 投げ方

1. 全てのダーツは片手で一本ずつ投げる。
2. 一度に投げられるのは 3 本までで、それを一投（ワン・スロー）とする。但し、3 本のダーツ以下でゲーム又はレッグが終了した時は、3 本投げる必要はない。
3. 試合において、スローイングは対戦相手と交互に行う。
4. ミドル勝負以外、一度投げたダーツは跳ね返って床に落ちてても、もう一度投げることは出来ない。
5. 全てのダーツはスローイングラインの前端又は仕切板（オキ）の後端から投げる。それよりも左右両側に出て投げる場合は、スローイングライン又はオキの延長線より後ろから投げる事が出来る。
6. プレーイングエリアライン（台と台との境界線）がある場合は、決してそのラインを越えてはならない。ただし線上は認めるものとする。
7. プレーイングエリアラインの左右線上に立って投げる場合、先に投げているプレイヤーを優先する。また同時に構えに入った場合は、基本的に左の台の選手を優先するものとする。
8. プレーイングエリアは台の左右 30cm・スローライン後方 60cm の範囲とする。
9. 基本的に 1 スロー（ダーツ 3 投）投げ終わるまでを、30 秒以内で行わなければならない。

C) ミドル勝負

1. 最初および最終レッグは、最初にそれぞれの選手がボードの中心に 1 本のダーツを投げ、センターに近い方から始める。これをミドル勝負という。試合開始時のミドルは両選手がジャンケンなどでどちらが先に投げるかを決める。
2. 3 レッグまたはそれ以上のレッグでのゲームもミドル勝負から始まる。センターに近く投げた方から最初のレッグを開始し、3 レッグの場合は、2 レッグ目を 1 レッグ目の敗者が先に投げる。5 レッグの場合は、ミドル勝負の勝者が奇数のレッグを投げることになる。相手の選手は偶数のレッグを投げる。
3. タイブレイクレッグ(同点で迎えた最終レッグ)の場合、どちらが先に投げるかミドル勝負で決める。この場合は、前のゲームの敗者先投げで行う。
4. 01 ゲームがリミットラウンドまでにフィニッシュ出来なかった場合、およびクリケットゲームが、リミットラウンド終了した時点で同点だった場合は、そのゲームの先攻先投げで行う。
5. ミドル勝負では次の 6. の場合を除いて、先に投げたダーツはそのままにしておく。次に投げる人はそのままの状態に投げる。後で投げる人により前の人ダーツが抜けてしまった場合、または中心から全く同じ距離だった場合はもう一度やり直す。その場合先行後攻は入れ替える。
6. 両者がインナーブルに入り距離も同じだった場合は、先の 2 本を抜いて先行後攻入れ替えてもう一度投げる。
7. 最初に投げた人がインナーブルのセンターホールに入った場合は、それを抜く事が出来る。また、後で投げる選手は、それを認めてダーツボードから抜くことを要求できる。
8. ミドル勝負は決着がつくまで行わなければならない。

D) 得点記録および審判

1. 一般

- a. 各競技の審判は、主催者の認定した者であり、ラウンドロビンの場合は指定された選手が、シングルイリミネーションの場合は、前試合の敗者どちらかが行うものとする。ただし1回戦の場合の審判は、役員により決定する。選手は必ずそれに従わなければならない。
- b. 審判は、選手が最後のダーツを投げ終わり、次のプレイヤーが投げる前までにスコアを書かなければならない。
- c. 審判は、ボードを確認できる位置で、常にプレイの状態を監視しなければならない。
- d. 審判は、その試合におけるすべての権限を有し、公明かつ公平に試合を遂行しなければならない。したがって、審判はゲームの停止、確認、訂正等をすべて行うことができるものとする。
- e. ダーツボードに刺さったものが得点の対象となる。したがって、前に刺さっていた矢に次の矢が触れて得点され、全く違うところに矢が刺さった場合、刺さったところの点数が得点となり、表示点数は修正しなければならない。ただし、得点されたにもかかわらず矢が刺さらなかった場合は、反応した場所の得点となる。
- f. 得点に対しての抗議は即座に審判に行い、ダーツを抜いた後では認められない。
- g. 1投目もしくは2投目に選手がボードに刺さっているダーツを触った場合、そこで投げのをを終えたとみなされ、それ以降はカウントされない。
- h. 記載ミスは、間違えた選手が次に投げるときまでに訂正しなければならない。
- i. 審判は、選手に得点および残りの点数を教える事は出来るが、フィニッシュの方法を教えることは出来ない。

2. 01 ゲーム

- a. ボード上でダブルとトリプル枠の間とシングルブルとトリプル枠の間はそこに書かれている数字が点数となる。ダブル枠の中は、その数字の2倍になり、トリプル枠の中では、その数字の3倍になる。セパレートブルの表記が無い場合は、アウター、インナーブル共に50点、セパレートブルの表記がある場合は、アウターブルの中は25点であり、インナーブルの中は50点となる。
- b. インナーブルに入った場合は、ダブルフィニッシュのダブルとして数えられる。
- c. スタートは、オープンインかマスターインで始められ、ゲームの種類（後述IV-G）によって決定している。
- d. ゲームを終了するには、以下の方法があり、同じくゲームの種類によって決定される。
 - ① マスターアウト (MO)
残った点数の半分のダブル枠もしくは3分の1のトリプル枠、またはブル(ブルアウトが認められる場合のみ)に入れなければならない。
 - ② ダブルアウト (DO)
残った点数の半分のダブル枠、またはインナーブルに入れなければならない。
- e. 上記のルールに従い、自分の得点を0点にした選手がそのゲーム（レグ）の勝者となる。0点になった後の得点は数えられない。
- f. トーナメントの規則では、ゲームは501、701、901、又はほかの01で終わる数字で構成される。全ての得点は、残りの点数から差し引かれる。
- g. バースト制とは、例えば、選手が残った点数以上の得点を取った時、またマスターアウト、ダブルアウトの場合トリプル、ダブルスコアではなくその点数を終えてしまった時や1を残して終わった時に適用される。そして投げた点数は得点として認められず、投げる前の点数が残される。
- h. 試合には決められたダーツ数（投数）がある。

- ① 01 ゲームのレッグはリミットを 15 ラウンド（45 ダーツ）とする。トーナメント規則によって制限をつけることは可能である。
- ② 15 ラウンド終了した時点で、両者ともフィニッシュできなかった場合は、ミドル勝負を行う。ミドル勝負はⅡ(c)に準拠する。

3. クリケットゲーム

- a. ボード上でダブルとトリプル枠の間とアウトールとトリプル枠の間はそこに書かれている数字の 15 から 20 までが点数となる。ダブル枠の中はその数字の 2 倍になり、トリプル枠の中ではその数字の 3 倍になる。ブルはアウトールの中は 25 点であり、インナールの中は 50 点となる。
- b. ひとつの箇所に入力することでその箇所を占有することができる。さらに本数を入れることで 1 本につきその箇所の点数を加算できる。しかし相手もその箇所に 3 本入れた場合は、双方無効となり今後点数が加算されることはなくなる。すべての箇所を占有した時点もしくは 20 ラウンドを終了した時点で、点数が勝っていた場合は勝者となる。
- c. 20 ラウンド終了した時点(レディースの試合の場合は 15 ラウンド終了した時点で)、同点だった場合は、ミドル勝負を行う。ミドル勝負はⅡ(c)に準拠する。

4. ペナルティポイント

- a. 審判はプレイ中のマナー、違反などによって選手にペナルティを宣言できる。
- b. 宣告できるペナルティは、D-CROWN PROFESSIONAL 規程および D-CROWN PROFESSIONAL 競技規程に基づくものであり、それ以外の事情に関しては、トーナメント役員およびスタッフに申告する。
- c. ペナルティを宣言した場合、審判はラウンドロビン表およびマッチカードに記載する。
- d. 審判が理由もなく試合を止める、明らかに間違ったジャッジをした場合、選手は役員およびスタッフに申告し、審判にペナルティを宣言することもできる。
- e. 審判が、審判席に観客が座っているのを注意しなかった場合、選手は審判に対してペナルティ宣言することが出来る。
- f. 1 試合で 3 ポイントもしくは、トーナメントで 5 ポイントのペナルティポイントを受けたものは、その時点で失格となり、トーナメントの参加資格を失う。ただし、次のトーナメントにこれらのポイントは持ち越されない。

Ⅲ. D-CROWN PROFESSIONAL トーナメント

A) 定義

D-1 トーナメントとは、会場で行うトーナメントを指し、D-CROWN PROFESSIONAL トーナメントは、その D-1 トーナメント内で開催するプログラムを指す。

B) 役員

1. D-CROWN は、トーナメントディレクター、コントロールデスク監督者、審判、トーナメント役員（審判を含む）を任命する。審判は、選手として出場出来る。
 - a. トーナメントディレクターは、トーナメントの監督と抗議や口論などがおこったときの和解に責任を持つ。
 - b. コントロールデスク監督者は、くじ引き、試合のスケジュール、結果記録に責任を持つ。
 - c. 審判は、スコアシート上の得点、勝敗、取得レッグ数、アワード、アベレージの記録に責任を持つ。また、試合の公平性、速やかな進行、正確なジャッジメントにも責任を持たなければならない。

- d. 特例として、役員が認めた場合に限り、審判に代役を立てることができる。この場合、選手もしくは事前に講習を受けたものでなければならない。
2. コントロールデスク監督者の指示のもとにコントロールデスクが設置され、試合のスケジュールや結果を表示する。終了した試合のラウンドロビン表、マッチカード、審判カード、スコアシートはコントロールデスクに提出される。設置する場合、D-1 トーナメントのコントロールとは別にすることが望ましいが、すべてはD-1 トーナメント主催者が決定するものとする。
3. D-CROWN は、必要とされるとき試合の時間や形式を変更する権利を持つ。

C) トーナメントの形式

1. 選手について
 - a. 出場資格（シングルス）

D-CROWN PROFESSIONAL 規程に則り、出場するために必要な条件を満たしたすべての選手
 - b. 制限（男・女シングルス）

出場できるか否かの資格についての制限を、D-CROWN によって定められる。
2. 選手数について
出場できる選手数の制限が決められることがあり、早くエントリーした者が出場の権利を持つ場合もある。
3. 試合形式について
予選ラウンドロビン、本戦シングルイリミネーションで行い、組み合わせはクジを引いて決定する。

D) 選手と参加費用

1. 出場できる資格を持ち、定められた施設使用料分担金を指定された期日に支払った者がトーナメントに参加できる。招待を受けた場合はこの限りではない。
2. 施設使用料分担金は D-CROWN が定める。費用は不返還とする。ただし災害などの場合は返還する場合もある。
3. 招待トーナメント等を開催した場合の招待者は、ランキングシステムやトーナメント結果に基づいて決められる。誰も招待トーナメントに優先的に招待される権利は持たない。
4. 正規の手続きをした選手のみがトーナメントに出場できる。
5. 選手がトーナメントに出場する場合、同一開催の D-1 トーナメントにはエントリーができない。また、D-CROWN PROFESSIONAL のプログラムが複数あった場合は、重複してエントリーできない。
6. エントリーが完了し D-CROWN がそれを受け入れたとき、選手はトーナメント競技規程を了承したものとする。
7. D-CROWN が任命する役員およびスタッフは、トーナメントでの、どの段階でも参加者を拒否する権利をもつ。

E) 受付・呼出

1. 全ての選手は、あらかじめ決まった時間内に集合し受付を完了しなければならない。特別な事由（交通の遅延等）が無く、時間内に受付が完了しなかった場合は、いかなる理由があろうとも失格となる。
2. 試合開始時に呼び出されてもその場に来ない選手は、試合する権利を失い、その後のゲームは失格となる。審判が来なかった場合には、失格含めペナルティが科せられる。
3. 最初にコールされておよそ 10 分でラストコールを行い、さらに 5 分後に失格とする。

4. 審判の役目を放棄した場合、当大会での獲得ポイントを没収するものとし、ペナルティが科せられる。このペナルティは継続するものとし、5回で1年間の出場停止処分とする。

F) 種目

トーナメントでは次にあげる全ての種目が行われる。

1. シングルス戦 オープンシングルス
2. シングルス戦 レディースシングルス

G) ゲーム、レッグ

1. トーナメントは、シングルスで行われる。
2. ゲーム内容は以下となる。

a. オープンシングルス

① 予選ラウンドロビン

701 (MI/MO ブルインブルアウト無し※) -Cricket-701 (セパレートブル OI/DO)

※ブルインしてしまった場合、そのレッグは負け。ブルアウトした場合は、バースト扱いとなります。

② 本戦シングルイリミネーション

701 (セパレートブル OI/DO) -Cricket-Cricket-701 (セパレートブル OI/DO) -Choice※

※701 (MI/MO) or 701 (セパレートブル OI/DO) or Cricket

b. レディースシングルス

① 予選ラウンドロビン・本戦シングルイリミネーション BEST16 以下

501 (MI/MO) -Cricket-501 (セパレートブル OI/DO)

② 本戦 シングルイリミネーション BEST8 以上

501 (MI/MO) -Cricket-Cricket-501 (MI/MO) -Choice※

※501 (MI/MO) or 501 (セパレートブル OI/DO) or Cricket

※MI/MO はブルあり

3. いかなる理由があっても代理人をたてることは許可されない。発覚した場合、その時点でエントリーしていた本人、代理人ともに失格となり、プロ資格剥脱もしくは1年間以上の出場停止処分とする。

H) トーナメント試合

1. 試合が開始後は、選手、審判以外は競技スペースに入ってはいけない。競技スペースはラインなどによって明確に示された空間であり、示されていない場合はテーブルからマシンまでの空間を指す。選手と審判およびスコアラーのみが試合中に、競技スペースに入ることが出来る。ただし、マシントラブルなどの処置をするための役員およびスタッフはこの限りではない。
2. 相手の選手は、一方の選手が投げるとき十分に後ろに下がり、その選手の邪魔をしないようにする。
3. 審判は、周りの審判席に観客等審判以外が着席した時には、注意しなければならない。注意しなかった場合は、審判にペナルティが科せられる。
4. スローイングライン上で選手は審判に得点数や残数についていつでも質問できる権利がある。
5. 審判は、選手に残りの点数は教えても良いが、アレンジなどは教えてはいけない。

6. D-CROWN ベスト 16、Ladies ベスト 8 以降以外の試合の撮影については、ランキング上位者が撮影用台で試合することを優先する場合がある。この決定はすべて役員が行う。

I) 失格

1. 一度その種目で失格になった選手は、その後代理人としてもその種目に出場することはできない。
2. トーナメントルール違反が、敗者である選手に影響を与えたり、違反が敗者の選手によって起されたものではなかったりした場合にのみ、役員は選手を復権させることができる。
3. ラウンドロビン中に棄権および失格となった場合、全ての試合(4 試合)が不戦敗となる。その場合、4 試合すべての Leg 差は±0 とする。尚、対戦相手のアベレージに関しては不戦勝となった試合は非参照とし、それ以外の試合のアベレージでラウンドロビンのレベルが算出される。
4. ラウンドロビン中に、同ブロック内で 2 人以上棄権および失格者が出た場合は、当該ブロック内全ての選手を失格とする。

J) 練習

1. それぞれの選手は試合前にその試合が行われる台のみでダーツを 6 本投げることができる。
2. トーナメントが始まったら、決められた場所以外での練習は許可されない。

K) ラウンドロビン

1. 大会当日の受付時に行うドローにて、ラウンドロビンを行うマシン番号が決定される。ラウンドロビン表はコントロールで作成され、役員により台に掲出される。選手は自分の名前があることを確認し、試合開始と同時にラウンドロビン表に記載された順番どおりに試合を行う。
2. ラウンドロビンは 5 名~6 名で行われ、全員 4 試合を行う。
3. 決勝トーナメント出場は、勝ち数、勝レグと負レグ数の差、予選試合のアベレージから算出したレベル(1 レグと 2 レグのみ)を基に、全参加者の順位を決め、上位の者から決定される。
4. Sanction での決勝トーナメント出場は、勝ち数、勝レグと負レグ数の差、予選試合のアベレージから算出したレベル(1 レグと 2 レグのみ)を基に、各ブロックの上位 2 位までとする。
5. ラウンドロビン表は、その試合の審判が記入し、対戦者は結果について必ず確認をしなければならない。もしコントロール提出後に誤記入が発覚した場合は、変更することができない。

L) スコアシート

1. ラウンドロビン中は、それぞれに設置されているスコアシートに審判は定められたすべての投擲を記録しなければならない。
2. ゲーム終了後は両者のアベレージを記入する。ラウンドロビン中の試合に関して、記入漏れがあった場合は、選手および審判全員が失格となる。
3. 審判は試合が終了し、選手、審判全員のサインを行い、必ず全員で確認した後、スコアシートをただちにコントロールに提出しなければならない。万が一紛失した場合も上記同様失格となる。

M) マッチカード

1. マッチカードはコントロールデスクで作成される。これらはシングルイリミネーションを実施するときに適用される。

2. コントロールで試合が組まれると、マッチカード、審判カード、スコアシートが用意される。
3. 出場する選手および審判が呼ばれたら、選手はマッチカードを、審判は審判カードと、場合によりスコアシートを受け取り、指定された台に向かう。
4. 選手はマッチカードを審判に渡し、審判は選手が本人であることを確認して審判のコールによりゲームを始める。
5. ゲーム終了後、審判はスコアシートおよびマッチカードにすべての結果を記入し、勝者のマッチカードを上にして丸をつけ、スコアシートと共にコントロールに提出する。選手は提出される前に必ずマッチカードおよびスコアシートを確認しなければならない。
6. もし選手が確認したにも関わらず間違いがあった場合は、選手の申告により修正をすることができる。しかし時間の経過により、コントロールデスク監督者が修正不可能と判断した場合は、誤記入がそのまま採用される場合がある。

N) 品行

1. 正当な理由無く試合を完全に終了出来ない選手は、表彰やランキングポイント取得の資格を失うと共に1年間の出場停止となる。
2. 試合中は、大きな声、派手なしぐさを慎み、近隣で試合をしている他のプレイヤーの邪魔をしてはならない。これらの行動はペナルティ及び失格などの対象となる。
3. 審判が、その選手に対して著しくスポーツマンらしくない品行（故意に遅刻したり、相手選手が投げるのを邪魔したり、嫌がらせなどをすること）であるとみなしたとき、即座に役員およびスタッフに申告しなければならない。役員はペナルティポイントの有無に関係なく、その選手を即刻失格させることができる。その場合その選手はトーナメントのその後の参加権を失い、表彰やランキングポイント取得の資格も失う。
4. トーナメントに参加する選手は、ビデオ撮影が行われる試合においてドリンクを飲む場合、専用のコップを使用しなければならない。これは会場で販売するD-CROWN専用コップ、もしくはそれと同様なものでなければならず、他のプレイヤーが使用する透明のプラコップを使用してならない。もし使用したことが発覚すればペナルティポイントもしくは退場処分となる場合がある。

O) 異議

1. 得点についての異議は、その選手がダーツボードからダーツを抜く前に審判に申し立てる。
2. 審判およびスコアラーの判断が困難な場合、選手の品行に対する異議等は、速やかに最終決断を下す役員およびスタッフ、トーナメントディレクターに申し立てる。

P) 宣伝

1. D-CROWNは、トーナメントに使用されるスポンサーの宣伝に対して十分な管理を施し、正当に扱わなければならない。
2. 選手は、D-CROWNの許可の無い商品や企業の広告のついた衣服を着用してはならない。

Q) 態度と服装

1. 試合をしていない選手は、スポーツマンシップにのっとり不名誉となるような行動は避け、試合中の選手に対して失礼のないような振る舞いをする。
2. 原則としてD-CROWNトーナメントにおいて、選手はユニフォームを着用しなければならない。
 - ① シャツは胸部にD-CROWN PROFESSIONAL ワッペンの付いた襟付きシャツ（ポロシャツも可）であること。
 - ② ズボンはかかとまで丈のあるズボンである事。ジーンズも可能ではあるが、手のひらで隠れない大きさのダメージや穴が空いたものは禁止とする。

- ③ シューズは革靴もしくはスニーカーとする。かかとのない靴およびサンダル等は禁止とする。
 - ④ 帽子など、頭に着用する衣服は禁止とする。ただし、宗教上の理由で必要な場合等は、事前に D-CROWN 事務局に了承を得ればこの限りではない。
 - ⑤ スポンサーロゴ等は D-CROWN PROFESSIONAL 規定に基づくものとする。
- 3. 主催者は、このような規則に違反した者を追放する権利を持つ。
 - 4. 選手はスポーツとしてふさわしい服装をし、不名誉となるような衣服は慎む。

R) 賞品

- 1. 獲得された賞金は、開催日の翌月末日に支払われる。
- 2. D-CROWN PROFESSIONAL 選手は、あらかじめ指定した順位を獲得した選手に盾や賞金およびポイントが与えられる。ただし、支払日にプロ選手登録されていなければ、賞金およびポイントを受け取ることが出来ない場合がある。
- 3. 受賞のときその選手が理由無くその場にはいないときは、主催者への許可なしに受賞の権利を放棄した事になる。
- 4. スポンサー費が支払われない場合、所属選手に対して、賞金、ポイントボーナスが支払われない場合がある。この場合、スポンサーの未払金額に関わらず、所属選手への支払いは凍結される。